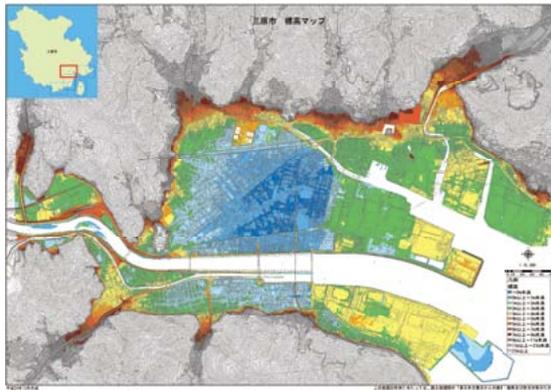


津波・高潮対策用 標高マップを作成



▲沿岸地域の標高を色分けして表示したマップ

市では、津波や高潮からの避難対策として、沿岸地域全体の標高を色分けして表示したマップを作成し、先月16日からホームページで公開しています。マップは、国土地理院が行なった標高測量に基づき作成したもので、市内の沿岸地域を5つのブロックに分割しています。

今月3日(日)には、沿岸地域の町内会・自治会の代表者を対象に、南海トラフ地震による本市への被害想定やマップの見方などについての説明会を開催します。その後は、地域単位で避難先や避難経路などについて協議を進めていく予定です。

また、来年度には、説明会などで出された意見を反映した津波・高潮ハザードマップを作成し配布する予定としています。

危機管理室

☎0848・67・6066

松浜地区みなとの賑わいづくり推進協議会が発足

県が事業を進める尾道系崎港松浜地区の港湾計画は、社会情勢の変化などにより計画の見直しが必要となっています。見直しに当たり、高潮対策や放置艇対策を行い、災害発生時に尾三地域をカバーする防災拠点として同地区を整備し、整備後の空間や施設を平常時にも活用することで、にぎわいを創出していくことについて検討する協議会が、先月18日に発足しました。

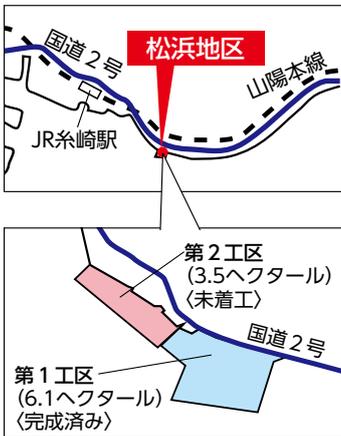
協議会は、学識経験者のほか、商工会議所や地元の4町内会、水産加工業者など20の団体が構成し、オブザーバーとして尾道海上保安部や県も参加しています。

同日行われた第1回目の会議では、広島女学院大学総合研究所客員研究員の武政孝治さんが会長に選出されました。また、事務局から防災・減災対策について説明した後、県が埋め立てを予定している第2工区のにぎわいづく

りについて、意見交換が行われました。各委員からは「観光船の停泊所として活用する」、「駐車場として整備する」、「魚釣りができる施設を造る」、「水産業を中心とした観光交流施設を整備する」など活発に意見が出されました。協議会では今後、他都市への視察や会議を重ね、協議会としての意見を取りまとめ、県へ提案していくこととしています。



▲松浜地区のみなとのにぎわいづくりを検討する協議会



消防出初め式で 防火意識を高揚

先月6日、三菱和田沖グラウンドで消防出初め式を開催しました。消防本部、市内全30の消防団、市内企業の自衛消防隊、沼田東小学校少年消防クラブなど1,098人が参加し、防火・防災意識を高めました。

YAYOIバトンスクールの演技に続き、参加団体による入場行進で開会。消防団対抗の放水競技では、8組に分かれて行われた予選会で4分団が決勝に進み、沼田東分団が2年ぶりに優勝を勝ち取りました。最後には、消防署員による救助訓練と一斉放水で式を締めくくりました。

日頃の訓練成果を披露した消防団員らに、来場者から拍手や声援が送られました。



▲懸命に放水する消防団員